



森田隼人

シャボン玉石けん株式会社
代表取締役社長

杉浦法行さん

にんぼう倶楽部シャボン玉石けんの店

高橋道夫

シャボン玉石けん株式会社
専務取締役

シャボン玉®
友の会だより 特別鼎談

(2022年12月発行)

福岡県北九州市若松区南二島2-23-1

☎ 0120-4800-95

FAX 093-791-9990

シャボン玉

検索



―森田 シャボン玉石けんは、今年、おかげさまで無添加50周年を迎えました。この節目の年に、専務高橋とお伺いする機会をいただきました。1996年以来、当社製品を取り扱う「シャボン玉石けんの店」を継続いただき改めて感謝申し上げます。

―杉浦 1996年春、本社工場に伺いました。素性の知れない私に、先代社長と井関元工場長は朝からつきっきりでケン化釜を一つひとつ、工場の隅から隅まで熱心に説明をしてくださり、直接の取引をさせていただけることになったんです。出身地の愛知でその年の秋に事業開始する前、石けんや無添加のことを知ってもらおうと先代社長は講演に来てくださった。250人もの人が集まり、熱心に耳を傾けていました。

―高橋 当時は、無添加全面切り替え後、17年間の赤字時代を乗り越えたとはいえ、社員30人ほどの時期。なぜ私どもに関心を寄せていただけたのですか。

―杉浦 発端は今からもう40年以上前、私が身体に異変を感じた20歳頃のことです。当時、税務署勤務で、その職業柄いろんな会社を訪問するわけですが、接着剤やセロテープ、プラスチック

ク成形などの工場では、なぜか駐車場あたりから涙が止まらず、息ができない状態になるため、その医務室で寝込むといった症状が再三発生しました。医務室は完全空調のためか症状が軽くなる。つまり、当時から企業側は、私のような症状で体調を崩す人がいることは承知していて、その意味すること実は何となく分かっていたんじゃないでしょうか。一方、職場では、私が普段は活発で元気がいいので、周囲から「あいつは嫌なこと、やりたくない仕事だと、すぐサボりだす」などと言われることもありながら、それでも、なんとか仕事を続けていたんです。

―森田 それはおつらいですね。1980年代だと化学物質過敏症など認識のないころ……。現在は、「香害」といった言葉への認知は広まったとはいえ、香料や化学物質で体調を崩す方は増えています。そうした方々は周囲の理解を得られず心身ともに苦しんでおられます。



―杉浦 アトピー性皮膚炎や花粉症という言葉でさえも、まだあまり知られていない時期でした。医師に相談しても完治しないと言われ、自分の身体は自分で治すしかないと言われ、腹を括りました。その後、生まれた子どもたちもかなりひどいアトピーでした。使うもの、食べ物……いいものがあると聞きつけては試す、自分で調べて試すなど、あらゆるものを見直しました。そして、石けんを試すなかで、シャボン玉石けんにたどりついたわけなんです。

―森田 お役に立てていたとはうれいす。その頃当社は低迷期でしたが、お客様から、「肌荒れが改善された。あノがとう」など、ご実感と感謝のお便りが「国から届いていました。そのお便りに代は決断が間違いいはなかったことを感じ、むしろお便りに励まされ、使命感にもなつて、無添加を貫き通すことができたんだと思います。

―杉浦 実は、息子たちがお世話になった保育園でも、シャボン玉石けんは活躍していたんですよ。息子は砂場の抗菌剤や給食時の消毒にも反応して具合が悪くなってしまつたので、息子にはシャボン玉石けんを使用していただけないか持参し園長先生に相談したところ「園で準備するから大丈夫ですよ」

手洗いせっけんバブルガード、シャボン玉スノー、洗たく槽クリナー、酸素系漂白剤。また、プールのお掃除にシャボン玉せっけんクレンザーが採用されました。子どもたちも一緒にお掃除するから安心なものが選ばれたのだと思います。また、コロナ禍には、ふきふきせっけんバブルガードがとても重宝されていました。アルコール消毒に対するストレスがずいぶん緩和されたと思います。もちろん、ふきふきせっけんバブルガードは現在もご利用いただいているようです。

農業経験がありましたのですか。

―高橋 杉浦さんと当社先代に共通するのは自分の感覚を信じ、妥協せず続

一杉浦 自分の感覚、それを最も大切にすべきなのに、他人のいう「あれが いい、これがいい」を鵜呑みにしたり、頼りすぎたりする傾向に危機感を覚えます。所詮、他人の感覚にすぎません。本当にそうなんだろう？、たくさん売れているからいいもの？、当たり前なのだろう？、そういった問いと検証の先にある自分の感覚にびったりくる選択というのが大事だと思うんです。私は常に、接する相手には「私を信用しないで」と声を大にして伝えています（笑）。そして、有害なものに対して、身体が拒否反応を示す、これは正常な感覚だと考えるようになりました。危険と感じるものをいかに避けた生活をするか？ 敏感であることは喜ばしいことではないのか？ 有害なものに反応しないのは、自然界では死を意味する重大な感覚の欠落ですから……。

A photograph showing the exterior of a Yamanashi Bank branch. The building has a modern design with large glass windows and a sign above the entrance that reads "山梨銀行の店" (Yamanashi Bank Branch) and "にんぎょう部" (Ningyōbu). A white crosswalk leads towards the entrance.

▶耕作放棄地・産廃処分場状態の土地を切り拓いた現在の畑。「野菜は寒暖差が大きいと育てるのは難しいのですが、甘さとは違う旨味抜群な野菜が育っていると思いますね」という杉浦さん。寒暖差がある土地で、無肥料・無農薬のおいしい野菜が育っています。



私たちの店舗は、以下の製品の推奨成分を重視し、
 国産・無添加・有機・無農薬などを採ります。仕事を
 続けることが義務になります。
 以下の製品を使用している方は、店内に入らず引換
 券がください。

揮発成分とは

食塩・炭酸水素ナトリウム・酒石酸・香料
香料・ヘアースプレー、各種香料など

強く刺激するものではありません。

揮発成分を強く感じるときは、お断りいただくこともあります。あらかじめご了承ください。

営業日 水曜日～土曜日
営業時間 AM11:00～PM5:00

定休日 日曜・月曜・火曜
(臨時休館することもあります)

お問合せ先 TEL 0868-75-3801

自然栽培機器とシャボン玉石けんのお店
にんぼう倶楽部

―森田 世の中が便利になりスピードアップや効率という概念ばかりに重きを置く流れの中、自然の中に生きる人間本来持ち合わせているはずの感覚が鈍っているのかもしれないね。にっぽう倶楽部にはそうした、杉浦さんの深い想いが込められているようにお見受けします。

―杉浦 にっぽう、とは、人の法、を指しています。今ある世の中の法律は、ほぼすべて抜け道ありきが前提にあると感じませんか。より多くの人たちのためにという建前のもと、立法者や関係者が本来の目的以外の使い方ができるようにになっている。そのアンチテーゼの意味が一つ。そして、たとえば、森田社長と杉浦、高橋専務と杉浦の間で、同じテーマでも森田社長とは考え方が似通っていれば、高橋専務と真逆などは当然あることです。それを、きちんと言い合える、すると自分は何を選択したいのかが明瞭になる。そういう一つひとつの関係性を大事にすることとを、人の法、と捉えているんです。私は石けんがいいと思い、店を構えている。一消費者ではなく、一人の人間の生き方として、石けんを使っています。安全なものを持ただめればいいのではなく、なぜこれを使うのか、その

後どうなるのかを考えて使う。そういう道筋の結果、石けんユーザーになる、その層が厚くなるほど一時的な流行で終わることはないはずです。
―高橋 2021年にPRT^{※1}R法で石けんは有害物質指定から除外されましたが、議再燃も予測されます。



―杉浦 洗剤業界は生分解性の高い合成界面活性剤の洗浄剤開発へと躍起になっています。有害物質を含まない水で稲作することが極めて困難になってしまった日本の水環境……、その認識があるのでしょうか。日本の水環境を悪化させている最大の要因は、農業と一般家庭からの生活排水といわれます。日本の水環境を良くするための一番の方法は、『農業・肥料を使わない農業』と『合成界面活性剤を使わない日常生活』なのです。

―森田 水は人間だけでなく地球上すべてに関わる問題です。当社理念（健康な体ときれいな水を守る）、引き続き徹底した取り組みを行う考えです。

今後の、展望をお聞かせいただけますか。

当たり前を 常に検証する

―杉浦 現在の経営はもちろん大事ですが、想いを次の世代に伝えることに軸足を寄せることも考えています。若い頃から人生の師匠を求め、あきらめかけていたときに、先代の社長に出逢うことができました。損得が見え隠れするような関係でもなければ、教える、教えられるというものでもないし、お互い様という感覚のなかで生まれた、特別な師弟関係だったように思っています。私を頼りに訪ねてきてくれる若者たちがいます。先代社長のように、つなぐべきものを、きちんとつなぐためには私はどうするべきか？私の受け売りではなく、私と関わることで、何かが参考になり、自分のやり方を見出すことができる。商品個々の安全性や有害性について、「知る努力をしないといつまでたつても分かるようにならないよ」ということや、常に問い直し続けることがいかに大切であるかを。そういう関わり方を、これからどれだけつくっていくことができるのかを模索しています。

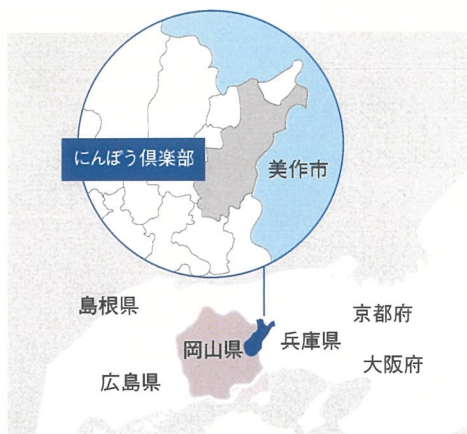
―森田・高橋 当社、そして読者にメッセージをお願いします。



―杉浦 御社が筋を通したもののづくりをされておられるから、私もブレることなく誰に対しても自信を持って考えを伝えることができます。使用して満足され、納得されている皆様だからこそ、石けんと合成洗剤の違いを理解する努力、そして、その違いを、自信を持って伝え続けていたいただきたいです。最終的には、その違いを伝えるのは使う人からであって、作る人や売人があることではないと私は考えます。なぜなら使う人こそが、主役であり当事者であり実感しているからなんです。一人では何も変わらないのではなく、一人でも変わる！一人から始まるんです。私も問い続け、伝え続けようと思います。

―森田 ありがとうございます。知る、問い直し続けることはメーカーとしての、あるべき姿にも重なりました。これから、忌憚ないご意見をいただき、

▶にんぼう倶楽部は岡山県北東部に位置する美作市の清らかな川や緑豊かな山間に位置。市内には美作三湯の一つ湯郷温泉があり、京阪神の奥座敷ともいわれます。



ときには議論もしながら、共に次世代に想いと技をつなげることができるよう、今後ともよろしくお願いします。



野菜畑の写真（開墾前）



開墾前の畑の航空写真（野菜畑と果樹予定地）

野菜畑の写真（開墾後）



猪や鹿は頻繁に入る



野菜畑 果樹園予定地 いずれも産廃用 4 トントラック 20 杯以上既に片づけたが、まだまだ廃棄物が出てくる

今回お話ししたのは

にんぼう倶楽部

杉浦 法行さん まゆみさん

愛知県出身。1996年、自宅にて開業。2010年、店舗開設。2020年、美作市に移転。農地も拓き、無肥料・無農薬の野菜作りも本格始動。冷静明朗な奥様と二人三脚で実直に石けん道を説き続けている。

「にんぼう倶楽部」公式サイト <https://nimpoh.silk.to>



株式会社 シャボン玉本舗

ISO14001 認証取得(本社)

※本誌の内容をコピー・転載の時はご連絡ください

シャボン玉石けんの
情報配信中です!

シャボン玉

検索

www.shabon.com